ケースマップ法を用いた急性期病棟看護師を対象にした気管挿管介助に適切に対応するためのトレーニンググシナリオ作成の試み

常味良一[1)]、三ッ倉裕子[1)]、見田野直子[1)]、高橋陽子[1)]、谷崎義生[2)]、美原盤[3)]、安心院康彦[4)]

美原記念病院　看護部[1)]、救急部・脳神経外科[2)]、神経内科[3)]
国際医療福祉大学熱海病院　救急部[4)]

【背景】当院は、脳･神経疾患の急性期からリハビリ･在宅まで一貫した医療の提供をミッションにしている 189 床のケアミックス病院で、45 床の急性期病棟がある。脳卒中を中心に年間 1,000 例の救急車を受け入れ、昨年度の脳神経外科手術数は 275 例、tPA 静注療法数は 40 例、血栓回収術は 19 例であった。急性発症する脳卒中では、重症意識障害症例や術後管理に気道管理が必要な症例が稀ならず存在する。したがって、医療チームの一員である看護師が気管挿管介助に習熟するための研修プログタムが必要である。【目的】急性期病棟で、新人看護師が気管挿管介助に有効な行動が取れない症例を経験したため、患者安全の基本である救命措置を徹底させることを目的に、「確実かつ迅速な気管挿管を介助する」を GIO に単一のケースマップ（以下 CM）を用いたトレーニングシナリオを試作したので、その作成過程について報告する。【対象と方法】対象看護師を新人看護師、2～3 年目看護師、4 年目以上の３群に分けた。対象疾患や勤務時間帯などの状況は受講者が勤務する現場で異なるため、研修前に適宜変更する。３者がチームで活動することを前提にした単一の CM を使用し、横軸の時間軸と縦軸の医療行為で構成される２次元平面内のエレメント数の多寡で、初級者、中級者、上級者の役割を規定した。【結果】(1) 単一の CM 法を用いることにより、チームビルディングに必須なそれぞれの役割を可視化することが可能であった。(2) 単一の CM を使用することにより､エレメント数の多寡により、臨床経験に対応したそれぞれの評価が容易になった。(3) 単一の CM を使用することにより、初級→中級→上級とステップアップに必要な過程を明確にすることが可能であった。【考察】患者安全研修には様々な方法が提案されている。今回は、横軸に時間軸、縦軸に医療行為を配置し、２次元平面に現場を可視化可能な CM を用いた。CM は現場に即した状況設定が容易で、時間軸の短縮や延長、

医行為の数の増減などで、受講者背景に対応したシナリオ作成も容易であった。
【結語】単一のCMは作成が比較的容易で、有害事象発生後の振り返りに迅速な対応が可能で、患者安全を目的にした日常業務の向上に有効であることが示唆された。今後、美原記念病院、前橋赤十字病院、群馬大学で作成したCMをお互いにチェックするためのシミュレーション研修を実施する予定で、その結果も合わせて報告する予定ある。